

まえがき」より(抜粋)

本書の特徴の一つは、関係当事者の「証言」にある。前著でも1988年の日米原子力協定について、その成立に尽力された故遠藤哲也氏に執筆していただいた。今回は、民主党政権時代の原子力委員長代理を務められた鈴木達治郎氏にインタビューにお応えいただくとともに、執筆と編集にも加わっていただいた。さらに、事故当時の首相であった立憲民主党最高顧問の菅直人氏にインタビューに応じていただいた。

本書のもう一つのキーワードは「検証」で、現在の原子力発電問題が抱える課題を、それぞれの専門家の報告をもとに章が組み立てられている。

本書の執筆者の原子力発電事業に対する見解は一様ではない。しかし、一致して、原子力に関する正確な情報を発信しようとしている。その努力が、少しでも多くの読者に伝われば幸いである。